

国語科学習指導案（1年1組）

1 題材 「花の形に秘められたふしぎ」

2 題材設定の理由

(1) 教材観

①学習指導要領上の位置付け

[知識及び技能]

(2)イ 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うこと。

[思考力・判断力・表現力等]

C 読むこと

(精査・解釈)エ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。

②題材の価値

本題材は、「花の形」と「訪れる昆虫」の関係について、調査した結果とそこから導かれた筆者の考えをまとめた説明文である。「花」と「昆虫」という中学1年生にとって身近な話題で、「花による昆虫の種類の違い」という「ふしぎ」を、観察による事実から推論するという形で解明していくという話の流れに、興味深く読み進めることができる。

「花の形に秘められたふしぎ」という題名は謎めいており、読者の興味を引きつけるとともに、問題提起の働きもある。また、本題材の構成は、最初の段落の「大きな問い」と最後の段落の「答え」の間に、説明の役割をもつ「小さな問い—答え」のセットが二つ繰り返される入れ子構造となっている。これら3つの「問い—答え」の関係は、それぞれ「なぜ」から始まる問いと、「つまり」、「このことから」、「このように」という接続語で答えを導くという構造になっており、段落と段落の関係がつかみやすい。さらに、グラフ1点と写真5点、図が2点掲載されており、本文の理解を支えたり広げたりするものとして重要な役割を果たしている。

以上のことから本題材の学習を通して、読み手を説得するための文章構成の工夫、連続型テキスト（文章）と図表の非連続テキストを適切に組み合わせ、補い合わせて読んでいく読み方を学び、他の文章を学習する際や自分で説明文を書く際に生かすことができるようにしたい。

③題材の系統性

- ・第1学年の5月に、「笑顔という魔法」において、「題名」のキーワードと本文との関わりを考えることを通して、説明文における「題名」の役割について理解することができた。
- ・第1学年の1月に、「言葉がつなぐ世界遺産」において、これまでの学習を生かして、「題名」のキーワードに着目して、文章構成を捉えたり、筆者の考えを捉えたりする学習を行う。
- ・第2学年では、「日本の花火の楽しみ」で、全体と部分の関係に着目して筆者のものの見方や考え方を捉えたり、「水の山 富士山」や「ガイアの知性」で、文章の構成や展開、表現の仕方を確かめながら、筆者の考えの根拠を明確にして読んだりする学習を行う。
- ・第3学年では、『新しい博物学』の時代』で、文章における論理の構成や展開、文脈における語句の効果的な使い方などを理解したり、「歴史は失われた過去か」や「文化としての科学技術」において、事例の取り上げ方や述べ方の工夫を吟味し、筆者の主張を評価して自分の考えをまとめたりする学習を行う。

(2) 生徒観（男子16名、女子18名、計34名）

①既習の学習内容や活動

1学期に、題材「笑顔という魔法」で、「説明的文章において、指示する語句や接続する語句に着目して構成を捉えたり、題名と関わるキーワードに着目して要点や要旨をまとめたりして、筆者のものの見方や考え方を捉える。」[知(1)エ、思C(1)ア]を目標に、学習用語「題名」と関連付けながら要点や要旨をまとめたり、題名について考えたことを伝え合ったりした。

②本題材に関わる生徒の実態

- ・説明文を読むことについて、23名が「新しい知識を得られる」、「いろいろな考え方を学べる」、「筆者の意見に対する自分の考えをもつのが面白い」、「文章の書き方を学べる」などとして、好意的に捉えている。一方、「文が長くて、話の内容がよく理解できない」、「筆者が何を言いたいのかわかりにくい」、「興味がない内容だと、面白くない」など、11名の生徒が苦手意識をもっている。そこで今回は、これまで学んできた要点のまとめ方を生かしながら、文章全体の構成を図式化する活動を行い、ひと目で内容を大まかにつかむことができるようにしたい。
- ・説得力のある説明文について、意見と根拠のつながりに言及できた生徒は18名であった。1学期に「芸術作品の鑑賞文を書く」において、絵画から受ける印象とその印象につながる根拠を明確に示すことの大切さを学んだことによると考えられる。今回は説明文において、筆者がどのような事実を根拠として推論し、自分の考えを主張しているかをしっかり捉えさせ、根拠の大切さを改めて実感させたい。

(3)指導観

- ・第1時を群馬大学教育学部の河内昭浩先生にご指導いただき、中大連携によって生徒の学習意欲を喚起するとともに、文章の図式化の目的や有効性についてより深く理解することができるようにする。
- ・説明文の前題材である「笑顔という魔法」の学習と同じように、題名に着目し、キーワードを取り出したり、題名から内容を想像したりすることにより、文章にとっての題名の役割を改めて認識することができるようにする。
- ・追究する過程の最初に文章全体を図式化することにより、論の展開や構成を大まかにつかんだり、根拠に基づいた推論がなされていることを捉えたりすることができるようにする。
- ・図式化については、第1時に既習題材や他の題材で文章構成を図式化する練習を行い（プレ学習）、図式化の意義や方法を理解させることにより、本題材で図式化する際に見通しをもって活動することができるようにする。
- ・各時間において、個人での学びの時間を確保し自分なりの考えをきちんともてるようにするとともに、ペアやグループでの学び合いの時間を設定し、生徒同士の対話の中から新たな学びや深い理解が実現できるようにする。
- ・毎時間課題について振り返る場を設けることにより、その時間に何を学んだかを自覚し、次時の授業や他題材にその学びを生かすことができるようにする。

3 題材の目標

文章構成を図式化したり、図表と本文を関連付けて読んだりすることを通して、筆者の主張が「推論」によって成り立っていることを捉えることができる。

4 指導と評価の計画（別紙参照）

5 本時の展開 (3 / 5)

(1) 目標

文章構成を図式化することを通して、3つの「問いと答え」とその関係を捉えることができる。

(2) 展開

学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点及び支援・評価
<p>1 本時の課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時は、初めてこの文章を読んだけど、まだ内容がよくつかめていないな。 本時は、前々回学んだ方法で、文章構成を図に表すのだな。文章が長くなったけど、上手にまとめられるかな。 	<ul style="list-style-type: none"> 長い文章の全体を捉えるために、第1時で学んだ「図式化」が有効であることを確認した後、図式化の手順を想起させ、見通しをもって取り組むことができるようにする。
<p>課題：文章全体を図式化して、文章構成を捉えよう。</p>	
<p>2 本文を読み、文章全体を図式化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前に一度やったことがあるから、少し自信があるよ。まず問いの文と答えの文を探してみよう。 問いの文がたくさんあるのはどうしてかな。 答えの文は、まとめを表す接続語が書いてあるから分かりやすいな。 <p>3 文章構成がよくわかる図になるようグループやクラス全体で検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 私のまとめ方と友達のまとめ方は同じだろうか。違うだろうか。 問いの文がたくさんあってよくわからなかったけど、友達の意見を聞いて、文章全体に関わる大きな問いと、それを解くための小さな問いという役割があることが分かったよ。 友達のようにまとめると、文章全体がよく分かるな。他の文をまとめる時、参考にしたいな。 <p>4 本時の学習内容を振り返り、今後の学習への見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 図にまとめるのは難しかったな。 図にまとめることで、文章全体の構成がつかめたよ。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人で追究する時間を十分に確保し、第1時の学習を生かして自分なりにまとめることができるようにする。 図式化の手順、第1時でまとめた図を黒板に貼ることにより、参考にしながら活動を進めることができるようにする。 答えの文が見つからない生徒には、接続する言葉に着目して探すといよいことをアドバイスする。 各グループで、順番に自分のまとめた図を見せながら説明するよう促す。その際、よく分からないところを質問したり、新たに気付いたことを伝えたり、参考になったことを自分の図に付け足したりすることで、個々の文章構成についての理解が深まるようにする。 クラス全体で検討し合うため、各グループにホワイトボードを配付し、皆の意見をまとめた図を書くよう指示する。 完成したものを黒板に貼るよう指示し、クラス全体で見合うことができるようにし、共通点や相違点を指摘させながら、よりよい図を共有する。 本時の振り返りをノートに書き、学んだことを確認させるとともに、次時は答えの根拠となる部分を読み解くことを伝え、次時の活動への意欲を喚起する。 <div data-bbox="742 1615 1439 1756" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【知識及び技能】 文章全体の構成を捉えて図式化し、「問いー答え」の入れ子構造を理解することができる。(ノート)</p> </div>
<p>〈振り返り〉</p> <p>最初は、問いがたくさんあってよくわからなかったけれど、みんなで話し合いながら図式化したことによって、大きな問いと答えが、2つの小さな問いと答えを包む構造になっていることが分かった。</p>	

〈見方・考え方を働かせる問題解決の過程〉
学習用語の獲得と活用を目指した説明的文章の系統的指導

指導と評価の計画 国語科 1年 題材「花の形に秘められたふしぎ」 (全5時間)

目標	文章構成を図式化したり、図表と本文を関連付けて読んだりすることを通して、筆者の主張が「推論」によって成り立っていることを捉えることができる。				
評価規準	<p>【知識及び技能】 文章の「問い—答え」の入れ子構造を理解し、文章全体の構成を図式化することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 図表と本文を照らし合わせ、その関連を捉えて文章を読解するとともに、筆者の文章構成の意図について考えることができる。</p> <p>【主体的な学習に取り組む態度】 本文の内容や筆者の説明の仕方に関心をもつとともに、図式化して文章を読み取る技能を、次の説明的文章の学びに生かそうとしている。</p>				
過程	時間	目標・課題	学習活動	振り返り	評価項目 (方法・観点)
つかむ	1	◎文章構成を図式化する意義や方法を理解することができる。 文章構成の図式化の方法を知ろう。	○既習の「電子レンジの発想」を用いて文章構成を図式化する方法を知る。 ○「メディアと情報」で図式化の練習をする。	☆文章の図式化とは、文章を要約し、視覚的にわかりやすくまとめることなのだ。長い文章や難しい文章も、図式化すれば、短時間で文章の内容や構成を捉えられるのだ。	【知識及び技能】 文章を図式化する意義や方法が理解できる。(ワークシート)
	1	◎興味をもって本文を読み、分かったことをまとめ、伝えようとしている。 本文を読み、感想を伝え合おう。	○題名から想像できる「花の形に秘められたふしぎ」について話し合う。 ○全文を読む。 ○分かったことや思ったことをまとめ、発表し合う。	☆花の形と訪れる昆虫の種類に関係があったなんて初めて知ったよ。面白いな。 ☆今までの説明文と違って、問いの文がいくつか出てきた。 ☆この文章の特徴をしっかりとめられるよう頑張りたい。	【主体的な学習に取り組む態度】 意欲的に題名から内容を予想したり、本文を読んで分かったことをまとめ、発表したりしている。(発言、ノート)
追究する	1 (本時)	◎文章構成を図式化することを通して、3つの「問いと答え」と、その関係を捉えることができる。 文章全体を図式化して、文章構成を捉えよう。	○第1時で学習した図式化の意義や方法を振り返る。 ○文章構成を図式化し、グループや全体で検討し合う。 ○3つの問いの関係性について考える。	☆最初は、問いがたくさんあってよく分からなかったけれど、みんなで話し合いながら図式化したことによって、大きな問いと答えが、2つの小さな問いと答えを包む構造になっていることが分かった。	【知識及び技能】 文章全体の構成を捉えて図式化し、「問い—答え」の入れ子構造を理解することができる。(ノート) ★学習用語「文章構成」
	1	◎「花の形」と「昆虫」の関係について、本文や図表を用いてまとめ、説明することができる。 「花の形」と「昆虫」の関係を読み取り、説明しよう。	○2つの小さな問いに対する推論に至るまでの「花の形」と「昆虫」の説明を読み取り、まとめ、分かったことを話し合う。 ○「推論」について理解する。	☆事実に基づいて自分の考えを導くことを「推論」というのだな。 ☆明確な根拠を基に、筆者が推論していることがよく分かったよ。 ☆3つの問いの関係性がより深く分かったよ。	【思考力・判断力・表現力】 「花の形」と「昆虫」の関係を分かりやすくまとめ、説明することができる。(ノート、発言) ★学習用語「推論」
まとめる	1	◎文章構成や表現の仕方の特徴を捉え、まとめるようとしている。 この文章の特徴や工夫を「はがき新聞」にまとめよう。	○「電子レンジの発想」、「言葉のゆれを考える」と比較して、本説明文の文章構成や表現の仕方の特徴を整理し、「はがき新聞」にまとめる。	☆図表があって分かりやすかったし、数字が細かく示されていて信頼できる。 ☆この説明文の特徴について、「はがき新聞」にわかりやすくまとめることができた。 ☆今回の構成や表現の工夫をこれから生かしていきたい。	【主体的な学習に取り組む態度】 文章構成や表現の工夫、図式化して文章を読み取る技能を、次の説明的文章の学びに生かそうとすることができる。(ワークシート)